日本共産党の地域新聞　発行所：日本共産党夕張市委員会　夕張市千代田２番地の２　TEL &FAX　52-3097　2012年８月26日（日）第1434号(1)

民報 ゆうばり

党創立90周年、岩見沢にて紙参議員語る！

火-TPP・水-消費税・金-原発、日替わりで国会包囲！

各界の運動とさらなる連帯を強めて
上田地区委員長挨拶

8月19日、日本共産党南空知地区委員会は党創立90周年記念式典を開催しました。

会場となった岩見沢平安閣には岩見沢市副市長阿部啓吉さんはじめ各界の代表者など多数の参加を得、上田地区委員長の主催者あいさつで始まりました。

挨拶の中で地区委員長は「南空知の農業を守るために地域の農業関係者と連携し、TPP問題についてシンポジュームを成功させた。この中で新しい信頼関係を築くことができた。これからも、さまざまな分野において誠実に連携を強める役割を果たしてゆきたい」とお互いの立場を理解し合って共同してゆく考えを強調しました。

紙智子さんの挨拶

党発展の歴史を引き継ぎ1万6千人の党員を迎えた

党中央委員会を代表して挨拶に立った紙智子参議院議員は「90年の歴史を振り返ると、長沼町出身の野呂栄太郎に思いを新たにする」とその人柄・偉業について話しました。「それを受け継いでこの1年間党発展の取り組みをし、1万6千人余りの党員を迎え入れることができた」と報告しました。

首相官邸を包囲する怒りの大行動

さらに国民の生活を守る闘いについて、今国会の経過を話した中で「政権与党になった民主党の裏切り行為にとどまらず、自民・公明までが国民を裏切って消費税法案をはじめその他の国民いじめの法案を次々に成立させるというかつてない暴走がおきている。

原発廃止の毎週金曜日実施されている官邸前大行動に続いて、火曜日はTPP反対、水曜日は消費税増税反対と抗議行動が連日起きている。

ここに見られるように、国民の意識はこの国の政治の在り方を根本から変えようとしている。そのことを受け止め実現するために私たちは力を尽くしたい。皆さんの支援を切にお願いします」と訴えました。

歴史の事実を示し丁寧な対応が必要

また、数日前から報道されている竹島や尖閣列島の出来事についてそれぞれ歴史的な背景をあげ、「党として以前から解決策を提起してきた。政府の対応のまずさが今表面化している。」と相手国にたいして誠実に対応する必要性を話しました。

木村けんじさんの挨拶

有権者に党の政策を知らせる行脚を全力で

木村候補は立候補表明以来4カ月が経過し、この間南北空知と留萌地区の各後援会などを訪問し活動を展開してきました。候補はこれまでを振り返り「小選挙区10区をこれまで約3回まわった。かつて炭鉱で栄えた町が多く存在するこの選挙区は共通して人口減と高齢化が深刻さを増している。戦後国の復興を支えた多くの労働者が住んでいる町を見捨てるわけにはいかない。必要な政策を提案し、実現に努力する。また、TPP問題に象徴されるように日本の将来にかかわる食糧、雇用について、深刻な問題を抱えているこの選挙区こそわが党の政策で解決できると感じている。私は党の政策をわかりやすく伝え、一緒にこの国の在り方を話あっていきたい」と10区候補者として決意を語りました。

野呂栄太郎を長沼町の誇りに感じる

記念式典に参加した各界の参加者を代表して閉会の乾杯に立った長沼町副町長廣岡雅浩さんは、日本共産党の野呂栄太郎について語り、出身地長沼町の一人として誇りに思っていると話し乾杯の音頭をとりました。

この祝賀会には北海道比例区候補の畠山和也さんも出席し挨拶をしました。

「大自然の中で大きく深呼吸！草・砂・川遊び、地べたに座れる喜び！」

…福島から夕張へ保養に来られた、お母さんからのお礼状…

ゆうばり再生市民会議のプロジェクトとして、被災者支援夏休み夕張ふれあいツアーを開催し、終了後にご意見・ご感想をよせていただきました。

★★★★★

「…大自然の中、大きく深呼吸ができ、草や石を思いっきり子供たちがさわれたことです。（3歳の娘は砂遊びをした記憶がありません）夕張の夏祭りで、一年ぶりに地べたに座った事も感動でした。自然の鹿やキツネに会えた事も衝撃だったようです。こんな素晴らしい経験をさせてあげられて親として嬉しく、幸せでした。今後の要望としては…北海道の新鮮で安心な野菜や果物を購入させてもらいたいです。昨年の3・11から一年が過ぎ、政府や県が何もなかったかのようにしたい空気が強く、放射能の事を口にすることもタブーの中、私自身も不安の声をあげるのをやめていました。今後は、今回知り合ったお母さん達の集会に参加させてもらう事から始めるつもりです。」

《郡山市Y・H》

「…最近では福島から来たということで、汚いもの・嫌なモノ扱いをされることも珍しくありません。何よりも皆さんに温かく迎えていただけたことがとても嬉しかったです。行きも帰りも沿道で黄色い旗を振ってくれた事。お祭りで温かい拍手をおくってくれた事。振り返って、動物園やロケット工場見学など観光はどれももちろん楽しかったのですが、夕張フォレスト前でシャボン玉をしたり、虫取り網をもってトンボやちょうちょを追いかけたり、クワガタをつかまえたり、箱根牧場でサッカーをしたり、川遊びをしたり…

外遊びする子供たちの顔が一番イキイキしていたように思います。当たり前のことが、福島ではできないので…。

産地も何も気にすることなく、地元野菜やメロンをたくさんいただけた（贅沢でした）ことも嬉しかったです。

帰宅後、放射線量が高いため外遊びを制限して、スーパーで産地を確認しながら食品を選ぶ現実生活にまた戻りました。

要望・提案ですが、子供たちの保養受け入れを続けていただければ、大変ありがたいです。放射能の心配のない土地で当たり前の外遊びができるだけでよいので。

個人的には、保養中に甲状腺検査、血液検査、心電図、尿検査等をしていただける病院の情報、医師による健康相談会を希望します。長男は甲状腺検査での胞が見つかり、二男は、あさって甲状腺の検査をします。市が言うように今後本当に2年に一度の検査でよいのかと、疑問を感じています…」

《福島市H・Y》

「かけある記」

日本共産党
北海道十区政策委員長
木村　けんじ

「ともに闘う日について」

「近いうち信を問う」との合意で、９日、自民・公明は不信任案採決欠席。10日、３党は消費税を強行可決した。解釈次第でいい加減なものだ。ある首相経験者、「近いうちとは２週間以内が常識」と解釈。他の首相経験者は「あれ（合意）は嘘でいい」んだって。現首相だって、確定の見通しあるわけない。あやしいのだ。

主権者国民に「信を問う」まじめに考えているかどうか。大門議員は、参議院特別委で２回、「信を問うとはどういうことだ」と首相にぶつけた。この期に及んで「増税を理解していただくよう努力」、２度目特別委採決の10日、「予断を持って言えない」と答弁。やはり、首相には、信を問う真摯な政治姿勢なし。

増税を決める前に、増税議員後退で増税撤回するか、それとも信任得て実施するかを国民に信を問う。これこそ、主権者に信を問う真の意味。３党合意に一番熱心な党首が19日、滝川で街頭演説した。１５分間演説の大半、増税の言い訳に費やしたという。

「党派を超えてこんな政治は、もう終わりにしましょう。再来年４月増税第一段階８％。それまで国政選挙が必ず２回あります。３党に国民の厳しい審判を下し、実施の道をふさぐため、ご一緒に力を合わせようではありませんか。」と、連日私は訴えています。世論の力は、改憲を待ちこたえられなくなる日